

令和3年 年頭の挨拶

年頭挨拶

「人の心を大切に」を テーマに難局乗り越え 力強く歩む年に

全日本一般缶工業団体連合会 会長
西日本一般缶工業協同組合 理事長

清水雄一郎



あけましておめでとうございます。

全日本一般缶工業団体連合会会員並びに
賛助会員、関係各社の皆様におかれまして
は、つつがなく新しい年をお迎えのことと
お慶び申し上げます。

また、平素から当連合会に対しご支援と
ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、業界内に
限らず日本国内並びに全世界規模で大変な
一年となりました。2020年の年頭はオ
リンピック・パラリンピックイヤーの幕開
けへの期待と喜びに満ちたスタートから一
転、コロナウイルスの世界的なまん延によ
る不安と混迷の毎日へと転がり落ちた年で
あったように感じます。過去にはリーマン
ショックや東日本大震災といった、未曾有
の危機と呼ばれる出来事を乗り越えてき

ましたが、これほどまでに全世界で同時に
かつ急激に経験する危機はありませんでし
た。経済的打撃とともに命の危険を感じる
日々は、本当に辛く大変な時間だったと思
います。

新年を迎え、なお世界中は未だ混沌とし
た状況です。いま生きて会社が存続し苦し
みながらも企業活動を行っていることに感
謝の気持ちを持ちながら、支えてくれる周
りの人々へ恩返しするために強い気持ちを
持って仕事に取り組み1年にしなければと
感じております。

パンデミックが経済を破壊の道に向かわ
せ人々の生活を脅かす中、人間の思考や価
値観が劇的に変化しています。かつて必要
であったものが不要になり、価値があつ
たはずのものに価値を感じなくなる。以前
にも増して変化が激しい時代に突入しま
す。仕事の基本は人や世の中の役に立つこ
とをすることです。人や世の中としっかり
向き合い関わることで、自社の力を発揮で
きる「場」を発見できると信じています。

以前から言われてきたことでもあります
が、物質的な豊かさが飽和状態にあると、
これからは人の心を豊かにする仕事的重要
です。我々一般缶に関わる各社も「モノよ
り人の心を大切に」ことをテーマに新
しい価値を生み出せるよう協力し合い、ま
だしばらく続くであろうこの難局を乗り越
えていきましょう。現状に恐れをなして立
ち止まることなく、周りのために力強く歩
みを進められる年になることを心より祈っ

ております。

結びに本年も当連合会に関わる会員並び
に関係各社の皆様の一層のご活躍とご隆盛
を祈念いたしまして年頭のご挨拶とさせて
いただきます。

年頭所感

我が国製造事業者の ダイナミック・ケイパビリティ の強化と 「パートナーシップ構築宣言」 の働き掛け等に取り組む

経済産業省製造産業局 金属課長

蓮井 智哉



令和3年の新春を迎え、謹んでお慶びを
申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス対応に明け暮
れた年でありました。新型コロナウイルス
感染症でお亡くなりになられた方々の御冥
福をお祈り申し上げますとともに、健康面や
生活面で影響を受けておられる方々に、心
からお見舞い申し上げます。また、産業界
の皆様からは、医療・生活物資の供給など
の御協力をいただき、改めて感謝申し上げ

ます。

新型コロナウイルスとの闘いは長期戦です。新たな生活様式の導入に加え、経済社会構造の大きな転換が求められています。

特に、多くの国や地域が、停滞した経済の回復と脱炭素社会への移行を両立させるグリーンリカバリーに重点をおき、カーボンニュートラルの旗を掲げて動き出しています。我が国としても、2兆円基金を創設する等カーボンニュートラルを実現するための取組を後押ししてまいります。

また、生産現場におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進も重要です。5G等の情報通信技術の製造現場での本格活用に向けた取組を後押しするだけでなく、我が国製造事業者のダイナミック・ケイパビリティの強化に資するよう取り組んでいきます。

さらに、サプライチェーン全体での取引適正化や、取引条件の改善も重要な課題です。これまで、望ましくない取引慣行の是正や、働き方改革に伴うしわ寄せ防止などに向けた取組を進めてまいりました。本年も、「パートナーシップ構築宣言」の働き掛け等を通じ、関係業界の皆様と連携しながら、取組を進めてまいります。

末筆ながら、金属産業界の皆様のご発展とご健勝・ご安全、そして令和3年が皆様方にとって素晴らしい一年となることを心より祈念致しまして、年頭の御挨拶とさせていただきます。

年頭挨拶

一般缶はリサイクルの優等生 ポストコロナ時代は SDGsを追い風に

東日本一般缶工業協同組合 理事長

廣瀨 泰久



皆さん、明けましておめでとうございます。令和3年の年頭にあたりまして、一言ご挨拶させていただきます。

昨年は何といたっても「新型コロナウイルスの感染拡大」のインパクトが大きかった年でした。それによって東京五輪・パラリンピックも延期となりましたし、社会全体で委縮することを余儀なくされました。一般缶業界もその影響を直接・間接の両面で大きく被り、大幅な需要減退が各社に打撃を加えたことと拝察いたします。

東日本一般缶工業協同組合としては、行政からの窓口という立場から様々な支援策を皆様にお伝えすることを心掛けてきましたが、多少なりともお役に立てたとすれば嬉しく存じます。

年が明けてもコロナ禍はまだまだ続くような様相ですが、「明けない夜はない」とも

言われていますし、この厳しい環境の中で企業も社員も鍛え上げることで、次なる展開に備えていきたいところです。

ポストコロナの時代は資本主義4.0に入ると言われています。株主の近視眼的な利益を過度に重視する「新自由主義・グローバル資本主義」から、中長期的な、多様なステークホルダー（利害関係者）に配慮した持続可能性の高い価値を創造する資本主義へのシフトです。その中で中核的な役割を果たすのがSDGs（持続可能な開発目標）。リサイクルの優等生であるスチール缶にとっては、大きな追い風となること間違いなしです。

一般缶業界も世代交代が進みつつありますが、幸いにして素晴らしい後継者が揃っているのが我が業界の特長。決して無くなることはないし、その価値が改めて評価されるべき一般缶の業界を支えていくのは私たちの使命です。

一般缶組合としましても、この間に具備したリモートの機能も駆使しつつ、精一杯の活動をさせていただきます。本年も、どうぞよろしくお願い致します。

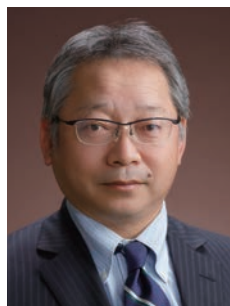


年頭挨拶

丑年の今年 先を急がず 一步一步着実に前進

中部製罐工業協同組合 理事長

安藤 宏行



令和3年の新春を迎えまして年頭のご挨拶を申し上げます。また日頃は、中部製罐工業協同組合に対して多大なご協力を賜り感謝申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスが大流行し、4月には緊急事態宣言が発令されました。それに伴い仕事のやり方も、在宅勤務や不要不急の外出を控えるなど大きな変化が起きました。あいにく製造業である私たちは、密を避け、マスク、手洗い等で耐えるしかございません。私たちの取り巻く環境は、まだまだ終息が見えない中、先行き不安な状況が続くものと考えております。菅内閣が誕生したり、ワクチンの開発が進むなどの明るい兆しも見えてまいりました。昨年実現できなかったオリンピック・パラリンピックの開催がコロナ禍を乗り越え今年こそはと願うところです。

今年は何年です。昨年の子年の繁栄を土台に、先を急がず一歩一歩着実に物事を進める大切な年にしたいと思えます。この一年が、組合員並びに賛助会員の皆様にも着実な発展の年となるよう心より祈念いたします。本年も組合活動に対して変わらぬご協力をいただきますようお願い申し上げます。

年頭挨拶

昨年世界中が 辛い思いをした分 今年は大きな伸びを期待

全日本金属印刷工業協同組合連合会 会長

中田 正和



明けましておめでとうございます。皆様方には、ご健勝にて新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

昨2020年は世界中が新型コロナウイルスに席卷された年となりました。コロナウイルスによる1年間の世界の死者数は170万人にもほり、人々はそれまでの日常を奪われ、生活様式を変えざるを得なくなりました。

経済への影響も大きく、世界のGDPが

3.9%のマイナス成長となり、非常に不安に満ちた一年となりました。サービス業の旅行関連、飲食関連が予想もできない大打撃を受ける結果となり、我々金属容器業界でもオリンピック・パラリンピックの延期、各テーマパークの閉園、人と会する事の自粛で手土産が売れなくなるなど多種多様な要因でかなりの影響を受けています。

日本全体ではコロナウイルス関連の倒産件数は700件にも到達しそうです。が、その一方で株価は独り歩きをし、アメリカのダウ平均は3万ドルを超え、日本の平均株価も2万7000円を超えるという実体経済とは乖離した結果となりました。

アメリカではトランプ氏が大統領になって4年間に、アメリカ国内でも様々な分断が進み、貧富の差が広がっています。また、世界の警察を自負し、民族間の虐待に対しブレイキ役を果たしていたアメリカですが、今では以前とは違った対応に終始しており、世界が負の方向に向かっていくように感じられました。バイデン氏が大統領になった後は人権を尊重する方向に政策を進めてくれることを望む次第です。長期的な視野で見れば、その方が経済的にも安定して成長するはずですが、

さて、2021年の干支は十支では『辛(カノト)』、十二支では『丑(ウシ)』で『辛丑(カノトウシ)』という年です。『辛』は秋の終わり頃、植物が枯れて実が熟し地面に落ち次世代のタネを大地に還す時期を表すそうです。そして『丑』は十二支の2番目に位置し、種から芽が硬い殻を破って出てこようとしている状態

で命の息吹を表しているそうです。生命エネルギーが充滿している状況とも言えます。『辛丑』はつらいことが多いだけ大きな希望が芽生える年になることを指し示しているそうです。なんとも昨年から今年にかけての状況に当てはまっているのではないのでしょうか。世界的な投資会社の一つからは2021年のGDP成長率が世界全体で6%と大幅なりバウンドになるという予想も出てきています。日本でも緩やかながら3.3%の上昇率が予想されています。昨年、世界中が辛い思いをした分、今年は大きく伸びることを期待いたしました。年頭の挨拶とさせていただきます。

業界並びに関連団体企業の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

年頭挨拶

東京五輪・パラリンピックの 無事開催と活気溢れる年になることを期待

東京都鍼灸地金商業協同組合 理事長

松苗 昭文



お迎えにいられたことと、お慶び申し上げます。また全日本一般缶工業団体連合会様には長きにわたり、ひとかたならぬご愛顧・ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返って見ますと、数々の嬉しい事、悲しい事がありました。中でも未だに収束の兆しが見えず、日本全体、或いは全世界をも巻き込んでいるのが新型コロナウイルスの感染症です。昨年末には全世界の感染者が8千万人を突破し、世界人口の1%を超えたとの報道もなされております。日本でも全国に緊急事態宣言が出されました。

現状は既に一部の国、地域ではワクチン開発も進み、認可接種が開始されております。本年は昨年延期になりました東京オリンピック、パラリンピックイヤーでもあり、日本でも早期にこういった対応が進み、無事に開催され、今後の新しい時代の幕開けのきっかけになればと願っております。

今年の干支、辛丑(かのとうし)には「潜在能力が抑圧を排除し上に発現し始める」との意味合いがあるようです。

一般缶業界の皆様にとりましても新しい活気溢れる年になりますよう祈念致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、穏やかに新年を



コロナ禍での業界の現状と将来の可能性を話し合う

全日本一般缶工業団体連合会

一般缶インベーションフォーラム Online 2020 を初開催

全日本一般缶工業団体連合会は令和2年11月12日、「一般缶インベーションフォーラム Online 2020」を開催した。写真。

テーマは「コロナ禍での業界の現状と将来における可能性について」。

今回は新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点から、WEB会議ツール「ZOOM」を初めて活用して実施した。会員会社など64社、142人が参加した。4人のパネラーから業界の現状と将来への展望が語られた。進行役は最上裕光運営委員長が務めた。司会是小西康晴運営副委員長。



最初に清水雄一郎会長は「今あるテクノロジーを活用して、次の時代へ組合や連合会の新しい在り方を模索しながら、皆さんと共に有意義な集まりにしていきたい」と挨拶した。続いて経済産業省製造産業局の蓮井智哉金属課長は「インベーションフォーラムという名前がすごく印象的だ。日本のインベーションは技術面で使われがちですが、シユンペーターさんが言っていたインベーションとは、何かと何かが新しく結合することなので、この意味からすると今回のWEBによる新しい開催の仕方はまさにインベーションという気がする。今のような新型コロナウイルス禍により大きな制約がある中で、逆にこの厳しいピンチを何とかチャンスに変えて打破していくという皆様の考え方は非常に重要であり有意義なことだと思う。今日のパネルディスカッションを聞いて皆様の仕事につながることに何か寄与できないかと思っている。金属業界は最近の大手企業の決算発表からも非常に厳しい状況だと思うが、いろいろと知恵を絞りながら、それを皆様で共有され、大きなつながりから固まりへと展開されることを期待する」と挨拶した。

最後に廣瀬泰久副会長が「業界の現状について、自分たちの周りのことはよく分かるが、業界全体としては分からなかった。それが今日の各業界からの話でよく理解できた。もう一つは、今後の可能性についての話の中で、環境とかSDGsというキーワードが追い風になってくると思うが、あとDX、デジタルトランスフォーメーションの話もあった。一般缶業界は品種が多いので労働集約的などころがある。あまり労働集約になると、最近には密になるのではないかとということもあるので、今までだったら隣に人がいたのが、隣がロボットだったら、これは密にならないだろうということ、これからその辺はもつと研究していかなければならないし、その成果が出れば相当大きなメリットがあるということも、改めて感じさせてもらった。今後ウイズコロナやポストコロナに対応していくことになる。大きく言えば日本の産業や文化を支えている一般缶業界としての使命があるので、これから我々一社一社力強く歩んでいきたい」と閉会の挨拶を行った。

パネラーの基調報告

岸本 幹生氏

(日本製鉄(株)薄板事業部ブリキ営業部ブリキ国内室長)

鉄鋼業界も今、急激な国内需要の落ち込みが現実化し稼働に苦しむ状況にある。この4-6月の第1四半期は商用が前年比20%くらいの落ち込みとなった。ただ、思ったほどその底は続かず、7-9月の第2四半期は7月以降、少しずつ回復が見られ、前年比15%くらいの落ち込みであった。従って上期は前年比2割弱、15%から20%くらい落ち込んだと見ている。これから大事なことは、この下期がどこまで戻るかということ。夏ごろ立てた計画よりも多少戻りはいい。ただ、新型コロナウイルスの第2波、第3波の襲来、これに伴う経済への影響の見極めが非常に難しい。下期は前年比10%減を切る。ところまで行ければと期待している。2020年度全体でも前年比10%を少し上回る程度の減になりそう。ただ、今我々がこの時期に、回復をどういう形で持つて行きたいのかという意志をやっぱり、皆で共有しながら取り組むことが大事だと強く思っている。非常に悪い状況の中ではあるが、次は我々の商品、素材を形にしていって製缶メーカーさん、その間に立つ各流通の皆さんが何を切り口に付加価値を付けていくかを我々としても考えていくことが、この逆境からの回復のバネになると思う。我々ブリキを供給する鉄鋼メーカーとしても、素材としてのブリキの魅力を色々なことで訴求していかなければと考えている。

弊社の取り組みの一つとして、環境ラベルのエコリーフというものをブリキの3製品で取得したことを紹介したい。

鉄は「作る」「使っていた」「使い終わった後のリサイクル」まで含めると、非常に環境にやさしい商品、素材だという特徴をなかなか行き届かせない、知らない方も増えてきている。我々も諸先輩方の努力にあらをかがいて、なかなかそのことを伝える努力を怠ってきたという、自省の念もあり、あらためてブリキ商品の環境性能の良さを訴えていきたいとの思いで、今回当社が供給させていただいているブリキ、ティンフリースチール、ラミネート鋼板でエコリーフの認証を取得した。また、どのように使っていたかのかの具体的な知恵には落とし込めていないが、相談いただければ、お客

様にはエコリーフというものを付けていた
だけ、そこに付いているURLコードから、
鉄の持つ環境性能の良さなどをPRするW
EBのページに飛ぶことができる。金属容
器、なかでもスチール容器の環境性能の良
さを一般消費者の方々に訴求するのに役立
てたいとの思いから発表したのがこのエコ
リーフです。今後、アメリカがパリ協定へ
の復帰や菅総理のCO₂削減問題というの
は、これからの社会全体のイシューになっ
ていくと思うので、この流れを先んじてつ
かみながら、皆様と一緒に国内のスチール
容器需要を盛り上げていきたい。

山本将之氏

(株)NPW技研代表取締役社長

弊社は今年、18リットル缶用の新しい溶
接機をつくった。また、数年前よりドラム
缶の設備も製作している。これは、製作し
ていた日本企業が撤退して、海外勢だけにな
ってしまったので、弊社に声が掛かり、
純国産機として開発製作し、今順調に稼働
している。

弊社は創業時より、いろいろなことに挑
戦してきた。コロナ禍でもその姿勢を続け
ていきたいと思っている。しかしながら、
弊社の能力を超えるような案件が来た時、
ヒト・モノ・カネの経営資源の観点から、
断念するという決断もしなければならな
い。これも経営判断の一つと考えている。

最近、自動車業界には徐々に回復の兆し
がある。自動車産業の仕事も以前、何件か
させていたのだが、これは非常に競争が
激しいところだった。ただ、製缶技術が応
用できる分野に関しては、こちらにアドバ
ンテージがあると思った。製缶では当たり
前のことが、そこでは新しい技術になる。

今持っている技術をベースにして、それを
アレンジしていくことで、新しい分野でも
戦っていけるのではないかと感じている。

情報収集を行い、異業種の人たちと交流
して、会社にも新しい風を入れ、これまで
と違った発想で物事に取り組んでいく。手
持ちのカードを出して、そこでも仕事が途
切れないような会社を作る。自分の得意分
野で勝負し、会社が存続していくことを一
番に考え、未来へとつなげていきたいと思っ
ている。

私たちの持っている、この製缶技術は他
業界でも生かせることが多々ある。例えば、
製缶会社と機械メーカーがタッグを組んで、
提案型営業を行い、今まで缶でなかったも
のを缶に近い形に変えてもらう。生産工程
や品質管理は製缶会社がマネジメント指導
し、製缶機械メーカーが機械をつくる。生
産工程も機械もなるべくシンプルにして、
導入してもらいやすい形に持って行く。

私たちの得意分野で勝負する。リサイク
ル率が極めて高く、地球にやさしいスチー
ル缶。環境問題が高まる中、まだまだいろ
いろな分野で活躍できると思う。スチール
缶の製缶技術の可能性を探っていくことが、
この業界の将来へとつながっていくのでは
ないかと考えている。

この先、どんな状況になっていくか分か
らないが、皆様、このコロナ、全集中で乗
り越えていきましょ。

中田正和氏

(全日本金属印刷工業協同組合連合会会長)

最初に当連合会の統計資料を説明する。
総数について、令和2年の1月と2月は、
前年対比95%くらいで推移していた。3月
頃からコロナの影響が開始して、3月83%

4月85%、5月72%に落ち込み、6月に入
ると91%まで回復してきた。4月から6月
の3ヶ月間の平均は83%となった。

売上についても、ほぼ同様の動きとなっ
ており、対前年比で1月と2月は98%でほ
ぼ前年並みで推移したが、3月が85%、4
月84%、5月が73%まで落ちて、6月に入
り88%まで回復した。

こうした状況の中、統計資料は出ていな
いが、7月以降は徐々に回復の兆しが見え
てきている。特に10月は前年比90%近くま
で回復していると思われる。

次に6月の段階で実施した金属印刷会社
へのアンケート結果が出ているので、報告
させていた。得意先及び受注の動向に
ついて、いろいろな意見が出ている。まず、
18リットル缶の出荷量が大幅に減少、受注
量は前年比75%、それから建築塗料の落ち
込みも激しいという回答が出ている。一般
缶については、やはり贈答品、菓子缶容器
が4月下旬から全く受注がなくなってい
ました。今後の見通しもついていない。ま
た食品、食用油などの外食産業、それから観
光産業や休園が相次ぐテーマパークのキャ
ンセルなどにより受注が激減したという回
答が出ている。缶詰の需要は多少高まりが
あったものの、かなり限定的な状態となっ
てしまった。

さらに社会活動を段階的に緩和していく
方針の中、コロナ感染第2波の不安もあり、
受注が以前の状態で回復するまでは、かな
りの時間がかかるという結果でした。

続いて、緊急事態宣言発令による社内業
務などの影響やその対応策についてのアン
ケート結果を報告する。一番目に出てきた
のはやはり、感染予防のための休業を増や
し、社内では手洗い、消毒、マスクの着用、
体温測定、消毒液の管理などの対応を行っ
ている会社がほとんどであった。

国の雇用調整助成金については、臨時休
業、短縮業務、交代制の勤務などを行い、
請求している。そのほか、機械のメンテナ
ンスなどを休みの日に実施しているという
会社もたくさん出ている。また地方自治体
の助成金の請求や金融機関からの長期の借
入れ、持続化給付金の請求もほぼ各社で行っ
ている。

業務については、得意先へ訪問しようと
しても「今は来ないでください」と断られ
るケースが多々出てきていて、営業面でも
差支えが出ている状況が報告されている。

最後に政府・自治体の支援策について、
無利子・無担保の借入はできたけれども、
雇用調整助成金の手続きが大変ややくしく
て難航したといったケースが出ている。そ
れから、困っている業種、困っている人た
ちへの支援をどんどんやってもらいたいと
の要求も出ている。

また、経済活動を再開させた後、金属缶
のサビなどにより、店頭商品の回収や再印
刷などが一時的に増大する可能性がある。
その際は残業時間の規制などの運用を柔軟
化してほしい、という意見が出ている。

コロナ後の今後については、新型コロナウイルス
収束までには、まだ相当な時間がかかると
思うが、それまでの間、持続化給付金、特
別子補給制度、雇用調整助成金など、企業・
雇用を守るための更なる支援策を迅速かつ
持続的に打ち出してほしいとの意見があっ
た。一方で政府にあまり頼っても仕方ない
のではないかとという意見も出ていた。

清水雄一郎

(全日本一般缶工業団体連合会会長)

コロナ禍での業界の現状について、一番
厳しかった時期は4月〜5月辺り。自分の

会社は菓子缶中心だが、5月の売上は半分以下に落ち込んだ。他の組合員に聞いてみると、化学塗料系はそんなに落ち込みがひどくなく、5%とか、10%くらいの落ち込みのみで済んでいるという話も聞いて、贈答関係の缶は、落ち込みが非常に激しかった印象がある。全国的にも同じような感じである。化学塗料は10%くらいの落ち込みで、食品や贈答向けは、半分近くの落ち込みがあったが、7月から9月辺りでは、7-10%くらいのところまで回復してきた。落ち込みが大きくなかった化学塗料も前年比80%くらいのところまで落ち込んだという話を聞いた。全体的に落ち込んではいないが、贈答系は少し回復傾向にあり、それでも7割くらいなので、厳しい状況は続いている。

一部にはDIYの巣ごもり需要というところ、ホームセンター系の塗料などは少し伸びているようだ。何もかもダメかと言われるとそうでもないような状況だと思えるので、得意分野のところを伸ばしていく可能性というのが残っている。

あとは将来における可能性というところだが、脱プラスチックとかいう話も出てきているので、鉄素材、スチール素材では、リサイクルもしっかりしている。環境に配慮した生活やモノづくりの面では見直される可能性がかなり残っていると思う。ただ、一般缶は環境にいい素材なんだというところが一般の方々に伝わっていないので、もっと業界を挙げて発信をしていかなければいけない。業界団体でやるのも大事で、やるべきことだとは思いますが、これだけの関係する会社がある中で、それぞれの会社で、もっと缶容器の優位性とか価値というところを発信していくことから始めるほうがいいと思う。組合で足並み揃えてやるということも難しいところがあるので、自分たちの

仕事の素晴らしさや価値を小さくてもいいので発信し続けるところから、何か新しい価値観みたいなものを世の中に投げかけていくことができると思う。あとは、デジタルトランスフォーメーションという、デジタル技術を使って、次の新しい時代に即したい働き方や環境作りをもっと進めて行くべきだ。工場にロボットを入れたり、システムとか、ウェブを使ってもっと発信し、一般缶の価値を伝えていくことも大切なことだ。

自社の話だが、「お菓子のミカタ」というサイトで新しい街の洋菓子屋さん、ケーキ屋さん向けに、既製品を売るという事業を、2014年から始めている。贈答用の百貨店やテーマパーク向けの売上が軒並み激減している中で、このサイトでは前年比150%で伸び続けている。需要のあるところを見つけて何かを投げ込めば、こういうコロナ禍でも伸び続ける事業に出会える。始めるタイミングが遅いというものは決してないので、次の3年とか5年後に向かって、今新しい何かを作り上げるために、種まきをするタイミングは今ではないかと思う。こうした取り組みを続けていくと、何か新しい市場みたいなものが見つかると思うので、いろいろな情報を共有しながら、我々の持っている製品技術で、次の5年10年に向かって取り組んで行けるようにしたい。

質疑応答

清水会長・近頃、SDGsとかサステナブルというキーワードで持続可能な社会への動きがある。鉄はリサイクルの観点から、すごく環境にやさしいものとして映るが、モノを燃やし溶かして作る素材だから、CO₂など温室効果ガスの排出という視点で

社会からどう見られているか。

岸本室長・鉄鋼業は産業として非常に大量のCO₂を出している。日本の鉄鋼業はエネルギー効率が一番良い形で鉄を生産している。CO₂をたくさん排出する他国の鉄鋼業に対して非効率な鉄の製造プロセスから、できるだけCO₂を削減した形に置き換えていく取り組みが続けてきた。日本鉄鋼連盟では、ここ数年SDGsへの関心が高まり、CO₂削減に力を入れて取り組み、CO₂フリーに向けたビジョンを発表している。2100年に向けてCO₂排出のトータルバランスでのゼロを目指す。鉄は様々な産業の発展、維持のためには必要な素材なので、これを全世界的なニーズにどうマッチングさせていくか、業界を挙げて国とも連携しながら進めていく。

清水会長・CO₂ゼロに向けての具体的な取組をお聞かせください。

岸本室長・還元剤を今の石炭から水素にかえる、その水素をつくるのに使う電気はどうするかといった課題がたくさんあるので、この問題は2100年に向けた大きな取組になる。鉄は土に埋まっている鉄と酸化した鉄から酸素を取り除くときにCO₂がたくさん発生する。それを還元するときに水素を使いCO₂排出を抑える。それでも発生したCO₂は、例えば地中化することでトータル的にバランスさせてCO₂排出を抑えていく取組だと認識している。

山本社長(N.P.W.技研)・弊社は生産機械メーカー。今後皆様の設備投資への考え方が非常に気になる。皆様は政府からの融資資金はどんな使い方をされているか。

小西社長(生野金属)・一番の顧客満足である品質に関わる設備投資を欠くことはできない。未来を見据えて、投資すべきところには投資していくことが弊社の方針だ。

西日本一般缶工業協同組合

第2回役員

ZOOMミーティングを開催

西日本一般缶工業協同組合は令和2年9月10日、第2回役員ZOOMミーティングを開催した。同会議では次の通り報告された。

新型コロナウイルス感染状況下での缶需要の現状

缶の売上関係では、菓子缶の低迷が続いている。

6月、7月は前年比60〜70%、8月は80%程度となっている。年内には少し戻って来て欲しいが、このような状態が続くと思われる。

現状でUSJ、百貨店等での人が戻ってこないで大変厳しい状況となっている。

塗料関係で巣ごもり使用の商品は需要がある。

売上が15〜20%落ち込むと利益が出ないので経費の削減をはかる。

展示会の一部が開催されてきたが、しばらくは広範囲にはできないのではないかと。

鋼材値上げの話も伝わってきているが、鉄鋼メーカーも厳しく、先行が見通せない。

新型コロナウイルス関係での意見交換

国がPRRし方向性を出さない限り、現状の状態が続くと思われる。

若者は動くが、それに伴ってコロナ陽性者が多くなることを懸念する。

ワクチンが早い時期にできることを望むが、冬のインフルエンザと重なるのではないかと。

マスクミ報道でのとおりでなく、自己認識で正しく理解することが必要である。

仮に社内でも新型コロナウイルスが発生したら大変なことになることを認識する。従業員員の健康状態に細心の注意を払おう。

ヴァーチャルとリアルの融合展

「組合まつりin Tokyo」にオンライン出展 日本のものづくり“一般缶”をアピール!

東日本一般缶工業協同組合は令和3年1月26日から2月25日まで東京都中小企業団体中央会がオンラインで主催する「組合まつりin Tokyo」に出展した。出展カテゴリーはものづくり(世界が注目 日本のものづくり)。屋形に見立てた仮想ブースに一般缶の種類と特長をリーフレット形式で表示し一般缶の良さをアピール。廣瀨泰久理事長から来場者へメッセージを発信するとともに、上部団体の全日本一般缶工業団体連合会が制作した東京都台東区立台東育英小学校での出前講座の動画を公開した。さらに同連合会のPRポスター、スチール缶リサイクル協会が作成したスチール缶リサイクルの全体フロー図を掲示した。開催のコア期間である1月26・27日の2日間は、特別企画のライブ配信が行われた。2日目の27日午後3時半から30分ほどLIVE配信ステージで野口雅春事務局長がMCの大谷ノブ彦さん(お笑い芸人ダイノジ)と①組合の紹介と活動内容②出展製品の紹介③新型コロナウイルスの影響や今かかえている課題④今後の展開についてトークした。



組合新春互礼会 ZOOMで開催

西日本一般缶工業協同組合

西日本一般缶工業協同組合は令和3年1月13日、令和2年から続いている新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、ウェブ会議方式「ZOOM」で新春互礼会を開催し、組合会社など9人が参加した。清水雄一郎理事長は冒頭「2020年は大変な年となり組合活動もほとんどできない状況が続いた。皆様の会社も同様な年ではなかったかと思えます。そうした中、リモートで集まっていただき有難うございます。今は我慢しながらも次の一手を考えていく時代です。まだ厳しい状況が続くと思いますが、覚悟を決めて回復を待つのではなく、何か活動していく。そして、会社のプラスになるよう努力して皆様と情報を共有していくことが大切です。今年は皆様と力を併せて、少しでも良くなることを期待しています」と挨拶した。

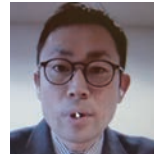
次いで馬場康之副理事長の先導で乾杯した。そのあと、参加者との懇親に入り、賀詞交歓と新型コロナウイルス感染拡大での組合員各社の現状等について情報交換が行われた。最後に小西康晴副理事長が閉会の挨拶を行い、全員退出した。



小西副理事長
閉会挨拶



馬場副理事長
乾杯



清水理事長
年頭挨拶

4S会会議を開催

4S会会議は令和2年10月13日、兵庫県尼崎市のホテルヴィスキオ尼崎において、新型コロナウイルス禍ではあったが、感染防止を行い、対面で開催された。関西地区の西部十八リットル缶工業組合、大阪金属印刷工業協同組合(幹事)、西日本一般缶工業協同組合と西日本クラウンズ会から16人が出席した。

第1議題では各組合の業界状況と関連諸問題について話し合われた。西日本一般缶工業協同組合の清水雄一郎理事長より一般缶の売上実績、直近の業況、組合の状況報告、新型コロナウイルス禍での一般缶の現状について話し合われた。

第2議題では、幹事より4S会関係者の情報交換、各業界における課題と問題点、特に新型コロナウイルス感染症拡大という未経験の状況での各業界、各社の動向について報告された。

*生産数量が大きく低下している中、小ロット品が増大し、生産が細切れ状態となり、効率的な生産が難しい状況である。

*当分の間、回復の見込みはない。感染症対策を取りながら活動していくしかない。

*従業員から要望もあり、アクリル板、空気清浄

機、マスク、アルコール類の設置等の感染症対策を行っている。それらの効果は不明だが、最低限の対策は必要である。

*テーパーパック、百貨店向け菓子類の落ち込みが大きい。食品缶の低迷が続いており6月・7月は前年比60・70%、8月は80%となっており、当分の間は80%ラインで耐えて持続していくしかない。塗料関係で果もり商品は需要がある。

*中途採用では、応募人員の質は上がっている。アパレル産業からの転職者もいる。

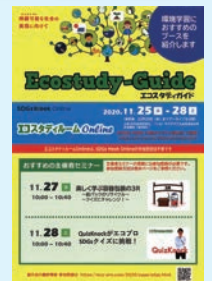
*鋼材の値上げ情報もあるが、現在の状況から対応はしていないし、取引先も厳しい。

各社の課題が顕在化しており、前を見て課題解決していくことが重要であるとの認識で一致した。新型コロナウイルス禍が収束し、マスクの取れる日を目指して頑張っていくこと、また各組合員業界も厳しい状況の中で引き続き情報交換を行いながら、協力していくことを確認し会議を終えた。



エコプロOnline2020 特設パビリオン「エコスタディールーム」に 台東育英小学校出前講座の動画を提供

スチール缶リサイクル協会は令和2年11月25日～28日の4日間にわたりWEB上で開催された「エコプロOnline2020」において、小中学生向けの特設パビリオン「エコスタディールーム」に3R推進団体連絡協議会の一員として参画した。全日本一般缶工業団体連合会では、同連合会が制作した台東育英小学校出前講座を収録した動画を「エコスタディールーム」の同リサイクル協会コーナーに提供した。開催4日間の3R協議会ページの訪問者数は1,502人。



東京都中央会創立65周年記念表彰式 廣瀨理事長、最上副理事長 東京都知事から感謝状授与される

令和2年10月16日、東京・中央区の銀座プロッサムで開催された東京都中小企業団体中央会創立65周年記念表彰式で多年組合の向上発展に寄与した功績により、東日本一般缶工業協同組合の廣瀨泰久理事長、最上裕光副理事長が小池百合子東京都知事から感謝状を授与された。



日本製鉄株式会社

代表取締役社長 橋本英二
東京都千代田区丸の内二一六〇一
電話 〇三(六八六七)四一一一

JFEスチール株式会社

代表取締役社長 北野嘉久
東京都千代田区内幸町二一三
電話 〇三(三五九七)三一一一

東洋鋼板株式会社

代表取締役社長 田辺敏幸
東京都品川区東五反田二一八一
大崎フオレストビルディング
電話 〇三(四五三二)六八六〇
FAX 〇三(三三二八)八一六〇

全日本一般缶工業団体連合会

会長 清水雄一郎
副会長 廣瀨泰久
副会長 安藤宏行
東京都台東区浅草橋五一四一五
ハシモトビル五〇二
電話 〇三(五八〇九)三三三六

東日本一般缶工業協同組合

理事長 廣瀨泰久
東京都台東区浅草橋五一四一五
ハシモトビル五〇二
電話 〇三(五八〇九)三三三六
FAX 〇三(三三八四)〇九一一

西日本一般缶工業協同組合

理事長 清水雄一郎
大阪府大阪市北区天神橋
二一四一七 千代田第一ビル
電話 〇六(六三三三)一九七三
FAX 〇六(六三三三)一九六七

中部製罐工業協同組合

理事長 安藤宏行
愛知県岡崎市宮地町字郷東三九
電話 〇五六四(五一)五六一
FAX 〇五六四(五一)一五六三

全日本金属印刷工業協同組合連合会

会長 中田正和
東京都墨田区業平一〇二六
本所ビル二階
電話 〇三(三六二六)二四一一
FAX 〇三(三六二六)二五〇二

東京都鋳力地金商業協同組合

理事長 松苗昭文
東京都中央区日本橋大伝馬町一七
電話 〇三(三六六三)八三五七
FAX 〇三(三六六三)八三五八

株式会社ヒロハマ

代表取締役社長 廣瀨庄一郎
東京都墨田区石原二二八一一
電話 〇三(三六二五)二六八〇
FAX 〇三(三六二五)二六八八

金方堂松本工業株式会社

代表取締役社長 竹内雅夫
東京都台東区東上野一〇二八一一
電話 〇三(三八三二)一一九一
FAX 〇三(三八三二)七一四四

江戸川製罐株式会社

代表取締役 岩田明義
東京都江戸川区平井五〇四六一九
電話 〇三(三六一二)四一三一
FAX 〇三(三六一七)五〇三四

工又工金属工業株式会社

代表取締役社長 中田則彦
茨城県つくば市緑ヶ原四一六
電話 〇二九(八四七)七二二〇
FAX 〇二九(八四七)六七七九

株式会社神宮製作所

代表取締役 神宮芳次郎
千葉県野田市上三ヶ尾二六一
電話 〇四(七二五)二二六一
FAX 〇四(七二五)三六三七

杉浦製罐株式会社

代表取締役 杉浦由記夫
茨城県守谷市百合ヶ丘
二一四八〇七
電話 〇二九七(四八)二五五一
FAX 〇二九七(四八)二五五二

水戸部製缶株式会社

代表取締役社長 水戸部伸寿
東京都千代田区神田和泉町
一一三一一
電話 〇三(三八六六)二一六六
FAX 〇三(三八六六)二三八八

大阪製罐株式会社

代表取締役社長 清水雄一郎
大阪府東大阪市岩田町二一三二八
電話 〇六(六七三)五五四五
FAX 〇六(六七二五)三三七〇

生野金属株式会社

代表取締役 小西康晴
大阪府高石市高砂三二二四
電話 〇七二(二六八)〇七七七
FAX 〇七二(二六八)〇七八二

株式会社ゼンユー

代表取締役社長 砂川秀樹
大阪府大阪市淀川区加島
四一〇一四四
電話 〇六(六三〇九)四〇三二
FAX 〇六(六三〇二)二一〇〇

エーエス精器株式会社

代表取締役 有山健一
大阪府東大阪市西石切町
六一六一一四
電話 〇七二(九八二)〇八一
FAX 〇七二(九八二)〇六七

江戸川製罐工業株式会社

代表取締役 渡邊静雄
大阪府大阪市鶴見区今津北
一一七一三八
電話 〇六(六九六八)六七六一
FAX 〇六(六九六二)三二五八

奥村製罐株式会社

代表取締役 奥村清司
京都府綴喜郡井手町大字多賀
小字西松ヶ花一
電話 〇七七四(八二)二〇七八
FAX 〇七七四(八二)四三二四

下宮金属工業株式会社

代表取締役 下宮正裕
大阪府堺市堺区南島町三丁一一三
電話 〇七二(二二三)八一二〇
FAX 〇七二(二二三)八一四〇

新高垣製缶株式会社

代表取締役 高垣悦夫
奈良県天理市永原町五番地
電話 〇七四(三六七)三三三一
FAX 〇七四(三六七)三二四一

光工業株式会社

代表取締役社長 吉田龍一
広島県東広島市志和町冠
一六五一一
電話 〇八二(四三三)五四〇一
FAX 〇八二(四三三)五四五三

日西製罐株式会社

代表取締役 矢谷満里子
大阪府大東市御領三一五一二〇
電話 〇七二(八七四)〇九七一
FAX 〇七二(八七五)四二五二

三国金属工業株式会社

代表取締役社長 板垣毅
大阪府豊中市豊南町西四一七一一〇
電話 〇六(六三三三)〇二五一
FAX 〇六(六三三四)〇二五五

明和金属工業株式会社

代表取締役 渋谷剛志
大阪府高石市取石七一五一二六
電話 〇七二(二七四)一一〇〇一
FAX 〇七二(二七四)六三三五

山雄製缶工業株式会社

代表取締役 山本浩之
大阪府大阪市北区大淀中
五一一一一四
電話 〇六(六四五)五一四一
FAX 〇六(六四五)〇八二一



有限会社山野初製缶所

代表取締役 木下光美
大阪府八尾市太田七一一〇
電話 〇七二(九四八)〇五五八
FAX 〇七二(九四八)二八五五

株式会社 ライトハウス金属工場

代表取締役 岩橋 徹
大阪府大阪市鶴見区今津中
一四一三四
電話 〇六六(九六三)〇四四一
FAX 〇六六(九六八)二二九八

日東製罐販売株式会社

代表取締役社長 安藤 宏行
愛知県岡崎市宮地町字郷東三九
電話 〇五六(四五一)二五六一
FAX 〇五六(四五一)二五六三

高野興業株式会社

代表取締役 高野 康弘
東京都墨田区本所一 一一一三
電話 〇三三(三六三)一一一六六
FAX 〇三三(三六三)六二六四

富 安 株式会社

代表取締役 田川 正之
東京都墨田区太平四 一五一五
電話 〇三三(五六一)七七七〇
FAX 〇三三(五六一)七七七〇

中村商事株式会社

代表取締役社長 中村 定
東京都千代田区神田和泉町一 一七一
電話 〇三三(五六八七)五九一一
FAX 〇三三(五六八七)六一五五

明邦鋼業株式会社

代表取締役社長 窪島 孝行
埼玉県越谷市新川町一 一四四五
電話 〇四八(九八七)〇七〇一
FAX 〇四八(九八七)〇七三〇

スチールリーフ株式会社

代表取締役社長 茂木 孝之
東京都葛飾区亀有五 一四八 一五
電話 〇三三(三六二)八〇三〇
FAX 〇三三(三六二)八〇六〇

エイコー株式会社

代表取締役 菊井 治
埼玉県草加市苗塚町五七七
電話 〇四八(九二二)八三七三
FAX 〇四八(九二二)八三七五

株式会社 M O B Y

代表取締役 宮内 太
千葉県市川市塩浜一 一四
電話 〇四七(三〇六)〇二一〇
FAX 〇四七(三〇六)〇二一九

大成ブリキ印刷株式会社

代表取締役社長 中田 正和
茨城県稲敷郡河内町長竿
富田四四六二
電話 〇二九七(八六二)二〇一
FAX 〇二九七(八六二)四二〇

東都金属印刷株式会社

代表取締役 菅谷 誠一
千葉県船橋市小野田町一五二 一三三
電話 〇四七(四五七)五四六一
FAX 〇四七(四五七)七二三八

富安金属印刷株式会社

代表取締役社長 菊井 治
埼玉県草加市苗塚町五七七
電話 〇四八(九二五)一五八一
FAX 〇四八(九二八)二六二〇

二橋プリント株式会社

代表取締役 二橋 英之
埼玉県三郷市彦川戸一 一三八 一六
電話 〇四八(九五三)二二六六
FAX 〇四八(九五三)五四二二

株式会社 城北磁力印刷工業所

代表取締役 竹腰 忠臣
千葉県野田市木間ヶ瀬二五〇 一一一
電話 〇四七(一九八)二六一一
FAX 〇四七(一九八)二七七九

株式会社江連金属印刷所

代表取締役 江連 一
千葉県松戸市上本郷八 一
電話 〇四七(三六二)〇一三五
FAX 〇四七(三六二)八七一五

新里機工株式会社

代表取締役 金澤 幸一
埼玉県川口市東領家四 一七一 一
電話 〇四八(二九九)九〇九七
FAX 〇四八(二九九)九〇九八

株式会社 N・P・W 技研

代表取締役社長 山本 将之
三重県伊勢市佐八町八九四
電話 〇五九六(三九九)一一三三三
FAX 〇五九六(三九九)一一三三六

松本金属工業株式会社

代表取締役 松本 勝俊
大阪府大阪市北区天満二 一 二一八
電話 〇六(六三三)〇九四一
FAX 〇六(六三三)七六四〇

株式会社井上博商店

代表取締役社長 井上 歩美
大阪府大阪市住吉区万代東
一一一四〇
電話 〇六(六六九)一一二二五
FAX 〇六(六六九)一一二二七

JFE商事ブリキセンター 株式会社

代表取締役 谷口 充浩
大阪府大東市新田旭町六 一一一
電話 〇七二(八七〇)九七三二
FAX 〇七二(八七〇)九七三〇

是松鋼商株式会社

代表取締役社長 是松 一郎
大阪府東大阪市楠根二 一六 一三
電話 〇六(六七四)二二六六一
FAX 〇六(六七四)〇四〇〇

三幸商事株式会社

代表取締役 武田 有広
大阪府大阪市西区北堀江
一一二一 一四
電話 〇六(六五四)一三五八五
FAX 〇六(六五四)二四一五

株式会社 神 光

代表取締役 小河 薫
大阪府吹田市南正雀一 一 二八一 一
電話 〇六(六三八)四四六六
FAX 〇六(六三八)六〇一一

日東金属工業株式会社

代表取締役社長 大久保 出
大阪府八尾市太田七 一 一六
電話 〇七二(九四九)六七一一
FAX 〇七二(九四九)六七五九

西部容器株式会社

代表取締役 川島 大吾
大阪府摂津市別府二 一三一 一八
電話 〇六(六三四)一六五一
FAX 〇六(六三四)七二二八

興和磁力印刷株式会社

代表取締役社長 池田 利恵子
愛知県津島市神守町字中ノ折
七二 一一一
電話 〇五六(七二八)五一六六
FAX 〇五六(七二四)四三三七

株式会社 愛罐コーポレーション

代表取締役 桑田 敬士
東京都渋谷区本町二 一三九 一四
電話 〇三(五三〇)五五一一五
FAX 〇三(五三〇)五五一一六

大貫金属工業株式会社

代表取締役 大貫 雄一
東京都葛飾区東新小岩
五 一 一七 一二
電話 〇三(三六九)六一七九
FAX 〇三(三六九)六一七九



大樹生命保険株式会社
 代表取締役社長 吉村俊哉
 東京都千代田区大手町二一―一
 電話 〇三三八一八五二〇九
 FAX 〇三三八一三三八一五〇

東日本一般缶工業協同組合
CPSM会

令和2年11月18日取手国際ゴルフ倶楽部で第67回CPSM会を開催した。参加者は22人。
 上位入賞者は次の通り。
 優勝 牧野亮太氏
 二位 松苗昭文氏 (富安)
 三位 小黒保満氏 (日進製缶)
 シニア枠
 優勝 高橋昭紀氏 (江東堂高橋製作所)
 次回は令和3年4月に開催予定。

令和2年8月から
 令和3年1月までの行事

東日本一般缶工業協同組合

令和2年
 8/6 第3回理事会(みなし決議)
 8/19 東京中央会
 「BCP策定講習会」
 9/1 理事懇談会(Teams)
 9/9 第4回理事会(みなし決議)

9/25 全国中小企業組合士協会連合会
 「組合士協会フォーラム2020」(ZOOM)
 9/25 事務局長協会
 「総務部会(Teams)」
 9/28 東京中央会
 「令和2年度上期情報連絡員報告会」
 10/15 CPSM会会議
 10/15 東京中央会
 「組合管理者等講習会」
 10/16 東京中央会
 「創立65周年記念表彰式」
 11/13 東京都火災共済協同組合
 「代理所研修会」
 11/18 東京都鉄二健保組合「理事会」(Remote Meeting)
 11/27 第1回人材育成委員会
 (ZOOM)
 11/27 東京中央会
 「組合まつり出展者説明会」
 12/1 第5回理事会(ハイブリット)「アル+Teams」開催
 12/2 組合士協会
 「正副会長会議」常任理事会
 12/7 中小企業大学校Web校オンラインセミナー
 12/15 東京都経営支援課
 「令和2年度団体情報連絡会」
 12/26 東京中央会
 組合まつりinTokyo

西日本一般缶工業協同組合

令和2年
 9/10 第2回役員ZOOMミーティング
 9/13 4S会
 12/18 第3回役員ZOOMミーティング
 令和3年
 1/13 組合新春互礼会リモートZOOM

全日本一般缶工業団体連合会

令和2年
 8/28 経済産業省金属課
 「令和2年度鉄鋼製品業況ヒアリング」(Teams)
 9/4 三役会(Teams)
 9/18 三役会(Teams)

9/23 第1回「一般缶インベリションフォーラムOnline2020」
 運営委員会(ZOOM)
 9/28 第1回理事懇談会(Teams)
 鉄鋼製品団体協会
 「研修会(Teams)」
 10/23 スチール缶連絡協議会
 10/27 フォーラムOnline2020
 第2回「一般缶インベリション運営委員会(Teams)」
 11/12 一般缶インベリションフォーラムOnline2020(ZOOM)
 11/26 エコプロOnline2020
 12/1 第2回全日本一般缶PR活動推進協議会(Teams)
 令和3年
 1/15 新年賀詞交歓会(中止)
 1/27 スチール缶連絡協議会

令和3年2月7日までの行事予定

2/4 東京都鉄二健保組合「理事会」(Remote Meeting)

2/17 人材育成委員会Webセミナー「SDGsの取り組み事例」(ZOOM)
 2/18 東京中央会「組合運営講習会」
 2/25 東京都鉄二健保組合「組合会」(Remote Meeting)
 3/10 組合士協会「常任理事会」
 3/19 第5回理事会
 3/24 事務局長協会「第65回定期総会」
 4/9 監事会
 4/22 第68回CPSM会
 4/23 組合士協会「役員会」
 5/14 第1回理事会
 5/31 東京中央会「第69回通常総会」

全日本一般缶工業団体連合会

2/10 鉄鋼製品団体協会「研修会(Teams)」

3/19 第1回理事会
 3/19 第3回全日本一般缶PR活動推進協議会
 5月中 連合会監査
 6/11 第43回定時総会
 6/11 第1回全日本一般缶PR活動推進協議会
組合伝言板
《代表者交代》
 《東日本組合員》
 江戸川製罐(株) 代表取締役 岩田明義氏
 令和2年9月
 《西日本組合員》
 エース精器(株) 代表取締役社長 有山健氏
 令和2年9月
 《西日本賛助会員》
 日東金属工業(株) 代表取締役社長 大久保出氏
 令和3年1月
《お悔やみ》
 令和2年9月10日
 江戸川製罐(株)代表取締役 加島裕様 (逝去)

令和2年6月～11月までの一般缶生産出荷実績(単位:t)

	年月	生産	出荷		在庫
			販売	その他	
経済産業省データ	2.6	4,196 (4,571)	4,008 (4,813)	14 (59)	8,837 (7,602)
	7	4,196 (5,061)	4,194 (5,379)	6 (6)	8,821 (7,263)
	8	3,655 (4,083)	3,557 (3,995)	1 (9)	8,913 (7,326)
	9	4,633 (4,754)	4,167 (4,588)	1 (23)	9,378 (7,479)
	10	5,132 (5,529)	5,039 (5,260)	1 (58)	9,467 (7,684)
連合会データ	2.6	2,433 (3,363)	2,418 (3,270)		7,202 (6,828)
	7	2,428 (3,557)	2,623 (3,448)		6,927 (6,876)
	8	2,278 (3,163)	2,275 (3,086)		6,954 (6,784)
	9	2,744 (3,594)	2,561 (3,399)		7,145 (6,961)
	10	3,235 (4,024)	3,226 (3,845)		7,138 (7,071)
	11	3,213 (4,042)	3,297 (4,131)		7,035 (6,991)

()内は前年同月実績
 経済産業省データは生産動態統計鉄鋼月報より転載